

防災教育講話 （3月11日 9年前の「東日本大震災」を子どもたちに伝えるために）

◆ 令和2年3月11日 午後2時46分を迎える前の放送にて

児童に皆さんに大切なお話をさせていただきます。心静かに聞いてください。

今から9年前の3月11日午後2時46分に、宮城沖を震源地とした大きな大きな地震が発生しました。その地震により、大きな津波も発生し、それらの被害により、宮城県をはじめとした東北各県で、1万5897人に方がなくなり、今も2533人の方の行方が分からないままです。一瞬にしてたくさんの尊い命が失われてしまったのです。住む家も失って、避難や引っ越しをしなければならなくなった人の数は5万1778人とされています。その大震災から今日で9年目を迎えます。

今ここで、この大震災で犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、9年たった今なお避難生活をされ、プレハブ仮設住宅で生活をされている方々にあらためてお見舞いを申し上げたいと思います。

さて、児童の皆さんに伝えたいことがあります。

私たちは、9年前の震災（地震）を決して忘れてはなりません。その当時生まれていなかった1年生や2年生の皆さんも、大きな災害があったこと、今なお震災の影響で大変な思いをしている人がいることを覚えておいてください。

どこか遠くの国で起こったことではなく、私たちの住むこの東北地方で起こった大変な災害であることを決して忘れてはなりません。

今私たちが考えなければならないことは、

「今 なに不自由なく生活できる喜びをしっかり考えて 生活すること」

「今 生きていることを喜び 一日一日を大切に生きること」

そして、特に5年生や6年生に考えてほしいこととして

「家族や友達、地域の人など、自分以外の周りの人たちのために、今、自分は何ができるかを考え、そして行動してみること」です。

東日本大震災から9年目の今日を、そのことを考えるきっかけにしてほしいと思っています。

それでは、この地震でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りして、全校生で1分間の黙とうをしたいと思います。（黙とう）（黙とうやめ）

以上、9年前に発生した東日本大震災のお話を終わります。

東根市立大森小学校 校長 土屋常義